



《2023年は、卯年》



うさぎは、体は小さいけれど、知恵もありエネルギッシュな動物ともいわれています。また、うさぎは飛び跳ねることから、飛躍する象徴ともされています。今回は皆さんの飛躍を願って、うさぎはもちろん、動物に関する本を集めてみました。



どうぶつ、どうぶつ 大集合！



中沢けい／著

『楽隊のうさぎ』

(新潮社)

何事にも引っ込み思案の中一・克久は、吹奏楽部に入部。全国大会を目指して練習に励む日々の中で、克久は精神的にも少しずつ成長していきます。タイトルの「うさぎ」の存在とは何か、ぜひ克久の心に寄り添って確かめてほしい1冊。(担当T)

那須田淳／著

『一億百万光年先に住むウサギ』

(理論社)

中三の翔太は、近所の便利屋サスケ堂のお手伝いをしていた。そこで知り合った大学の先生に頼まれ、恋の相談の手紙の代書を手伝うことになる。ウサギや樹にまつわる恋の伝説がモチーフになった青春小説です。

(担当I)

増井光子／著

『動物が好きだから』

(どうぶつ社)

ライオンとシマウマの赤ちゃんが登場する『どうぶつの赤ちゃん』の著書でもある増井光子(ますいみつこ)さん。上野動物園初の女性園長でもありました。そんな増井さんの人生の心意気が楽しめる1冊です。

(担当N)

あべ弘土／著

『どうぶつ友情辞典』

(KADOKAWA／角川文庫)

絵本作家でもある著者は、かつて旭山動物園で飼育係だったという経歴も。そんな著者が、様々な動物にまつわるエピソードを辞典形式で紹介する1冊。動物の漢字一文字から広がる知識や、こぼれ話がいっぱい。

(担当T)

北川民次／ぶんとう

『うさぎのみみはなぜながい』

(福音館書店)

うさぎはいじめられないよう体を大きくしてほしいと神様にお願いしました。しかし、神様はトラとワニとサルをころして皮をもってきたら、願いをかなえるといいます。小さなウサギは知恵を使い大きなけものに立ち向かいます。メキシコの古昔のおはなしの絵本。

(担当I)

まど・みちお／詩

『ぞうのミミカキ』

(理論社)

童謡『ぞうさん』の作詞家としても有名な、まど・みちおさん。ぞうのミミカキに出世したマゴノテ！ごきげんなトンカチ！など…。まどさんの詩で、見慣れた世界がより愉快なものになりそう。

(担当N)

小手鞠い／著

『初恋まねき猫』

(講談社)

中学二年に進級する直前の春休みに、腕と脚を骨折して動けなくなってしまった龍樹。退屈な毎日の中、寝たきりの部屋から、ふと窓を見ていると、一匹の猫がやってきます。不思議なことが起こる1冊。

(担当T)

郡司芽久／著

『キリン解剖記』

(ナツメ社)

キリンが亡くなったから、他のどんな用事もキャンセルしてキリンを解剖し、これまで30頭以上を解剖してきた著者。子どものころから、キリンが好きで著者が解剖学に出会いキリン博士となるまでをまとめた1冊。読めばキリンは勿論のこと、解剖学に関しても、興味を持つと思います。

(担当I)

増田隆一／著

『はじめての動物地理学』

(岩波書店)

「どこにどんな動物が分布しているか」「動物は地球上をどのように移動してきたのか」という疑問に答える動物地理学。なぜ北海道はヒグマで、本州はツキノワグマなの？クマやキツネなど、それぞれの分布と移動を捉え、その動物がなぜそこにいるのか謎解きが楽しめます。

(担当N)



年度末の進級・進学を控えた皆さんへ 本の処方せんの紹介！



本を読むことは、ストレスが減ったり、何かをするきっかけを得られたり、集中力が高まったりと、色んな効果があります。

例えば・・・「泣ける」「笑える」「癒される」「ハラハラする」「キュンキュンする」「元気をもらえる」など！

年度末の進級・進学を控えた時期にぜひ、自分の心に効く1冊を探してみてください。



元気をもらえる

まはら三桃／著
『日向丘中学校
カウンセラー室』
(アリス館)

日向丘中学校のカウンセラー・綾のもとには、様々な悩みを抱えた生徒たちがやってきます。綾とのカウンセラー室でのやり取りを通して、元気になってほっこりするような1冊です。
(担当 T)

癒される

天童荒太／著
『包帯クラブ』
(筑摩書房)

心の傷を受けた場所へ行き、包帯を巻くと心がラクになると感じた高校生のワラ。この行為は広がり、ワラと仲間達はいろんな人から依頼を受け包帯を巻くクラブを結成した。傷ついた時や、生きづらさを感じた時に是非読んでください。(担当 I)

ハラハラする

アンソニー・マゴワン／作
野口絵美／訳
『荒野にヒバリをさがして』
(徳間書店)

春先に鳴くヒバリを見るため、犬のティナを連れて田舎へハイキングに出かけたニッキーと兄のケニー。ところが、季節外れの雪でヨークシャーの荒野をさまようことに…。兄弟、家族の絆がドラマティックに描かれた物語です。(担当 N)

キュンキュンする

瀧羽麻子／著
『うさぎパン』
(幻冬舎)

幼い頃に母を亡くした優子は、父の転勤をきっかけに、父の再婚相手のミドリさんと2人で暮らすことに。女子中出身の優子が、共学の高校生活を楽しむ中おこる奇跡とは？
(担当 T)

笑える

奥泉光／著
『桑潟幸一准教授の
スタイリッシュな生活』
(文藝春秋)

才能もやる気もない文学部准教授の桑潟幸一、通称「クワコー」。顧問の文学部を舞台に、クワコーは不思議な事件に巻き込まれていく。個性的な登場人物が魅力の笑えるミステリー小説。(担当 I)

泣ける

高木敏子／作
武部本一郎／画
『フォア文庫 (c) 新版ガラスのうさぎ』
(金の星社 刊)

12歳の敏子は、戦争で母と2人の妹を失い、さらに父まで失うことに…。取り残された少女は、家族のために生きぬこうと決意します。平和への祈りを込めた1冊です。
(担当 N)

編集後記



- ・子どもの頃、満月を見てウサギが餅つきをしているように見えた時の感動は今でも心に残っています。(担当 N)
- ・動物園は年齢により楽しみ方が変わると思います。大きくなっても、何度でも行ってみてください。(担当 I)
- ・寒さは苦手ですが、帰り道、夜空に映える綺麗な星に、空気の澄んだこの時期ならではの感謝です。(担当 T)

